

「食べる」を支える栄養評価と対応

参加無料

会場：松本歯科大学図書館学生ホール

時間：午後 6 時～7 時30分

※本シリーズの受講で、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士の単位を各講座10単位取得できます（2/10は対象外）。参加証が必要な方は、当日受付の際に申し込み下さい。

※事前申込不要。一般の方も聴講できます。いずれの日でも参加可。

— 2015年 —

12 / 8
(火)



「嚥下調整食分類の標準化と実情」

松本歯科大学障害者歯科学講座 准教授 **麓島 弘之**

国内に統一された嚥下調整食の段階が存在しないために、地域連携の足かせになるとして、日本摂食嚥下リハ学会は 2013 年に、嚥下調整食分類のガイドラインを発表している。今回はガイドラインの概要と現状ならびに今後、臨まれる取り組みについてお話します。

12 / 22
(火)



「チームで実践！嚥下障害者の栄養ケア・マネジメント」

地域栄養ケア PEACH 厚木 代表 **江頭 文江**

訪問栄養指導の依頼の多くは摂食・嚥下障害であり、口から食べることが困難になったときに、介護者の不安は大きいと感じる。地域食支援を円滑に進めるためには、チームによる実践は不可欠であり、多職種とスキルアップができる地域づくりは重要である。

— 2016年 —

1 / 13
(水)



「摂食・嚥下障害の栄養ケア」

国立研究開発法人国立国際医療研究センターリハビリテーション科 医長 **藤谷 順子**

摂食・嚥下障害の場合には、「嚥下機能」と「栄養面」の両者をケアすることが必要である。嚥下機能が改善すれば自然に栄養状態が改善するのではなく、いかに現在の嚥下機能でも栄養状態を改善できるか、が重要となる。本セミナーでは、そのための評価・指導・介入方法について解説する。

2 / 10
(水)



「高齢者のフレイルを予防するための歯周病治療」

松本歯科大学歯科保存学講座 教授 **吉成 伸夫**

高齢者のフレイルと口腔の関連性は、従来、歯数減少、咀嚼障害の結果である栄養状態との影響が報告されていますが、本講義では歯周病との関連性を考え、歯周病治療による予防、治療の可能性を探ってみたいと思います。

フレイルの予防と歯科



「歯を失わないための歯科治療－フレイルを予防する－」

松本歯科大学歯科補綴学講座 教授 **中本 哲自**

咬合支持、すなわち上あごと下あごの接触関係を失うと、転倒回数が増えるとの報告があります。本講義では歯を失わないために、どのような注意が必要か、修復治療の予後を中心に可能性を模索したいと思います。